

～アジア株式とアジア経済の動向について～

ポイント

- 今年の世界株式市場の特徴は、先進国株式と新興国株式の“デカップリング”(非連動)とされています。この状況は、先進国株式とアジア株式においても同じです。先進国株式とアジア株式のパフォーマンスに格差が広がった理由として、1) 中国経済のスローダウン、2) 国際商品市況の低迷、3) 米国の量的緩和縮小観測による資金フローの変化等があげられます。
- アジア主要国の直近の実質GDP成長率は、先進国に比べて高い水準にあり、アジア地域は、依然力強い“経済成長”の地域といえます。アジア株式もアジア地域の経済成長を先導する形で上昇していくものと考えられます。

◆ 今年の世界株式市場の特徴は、先進国株式と新興国株式の“デカップリング”(非連動)とされています。この状況は、先進国株式とアジア株式においても同様です。パフォーマンスの格差が広がった理由として、1) 中国経済のスローダウン、2) 国際商品市況の低迷、3) 米国の量的緩和縮小観測による資金フローの変化等があげられます。(図表①)

◆ 先進国株式とアジア株式は、ともに6月25日近辺を安値に反転しました。中国の“シャドウ・バンキング問題”で一時、急上昇した市場金利が落ち着きを取り戻したことや米国の量的緩和縮小に対する懸念がバーナンキ議長の講演等から和らいだことなどが材料となりました。

(MSCI G7、MSCIアジア指数の年初来パフォーマンス)

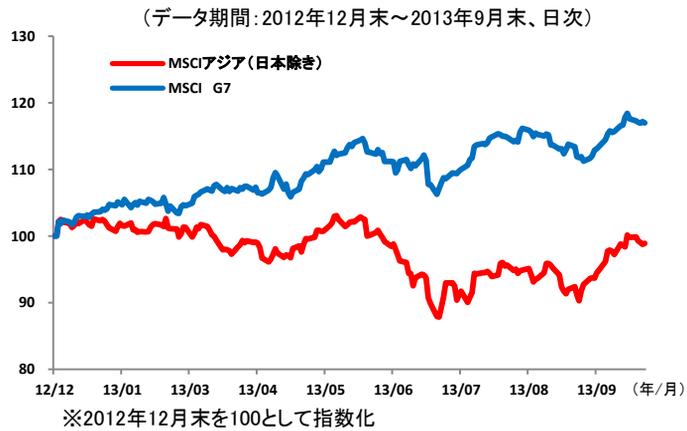
	年初来	～6月25日	6月25日～9月末
MSCI G7	16.2%	7.2%	9.3%
MSCIアジア	-2.5%	-12.2%	10.9%

(2013年9月末時点)

◆ アジア開発銀行(ADB)が10月2日に発表した「アジア経済展望」改訂版で、ADBはアジア太平洋地域(日本など一部先進国を除く)の2013年の実質GDP成長率を0.6%下方修正し、6%としました(2012年は6.1%)。但し、来年以降は、年6.2%の経済成長と経済の回復を予想しています。(図表②)

◆ アジア主要国の直近の実質GDP成長率は、先進国に比べて高い水準にあります。アジア地域は、依然力強い“経済成長”の地域といえます。新興国は、先進国の金融・財政政策の影響を受けながらも、中長期的には経済成長の軌道に乗っているものと思われます。アジア株式は、アジア地域の経済成長を先導する形で上昇していくものと考えられます。(図表③)

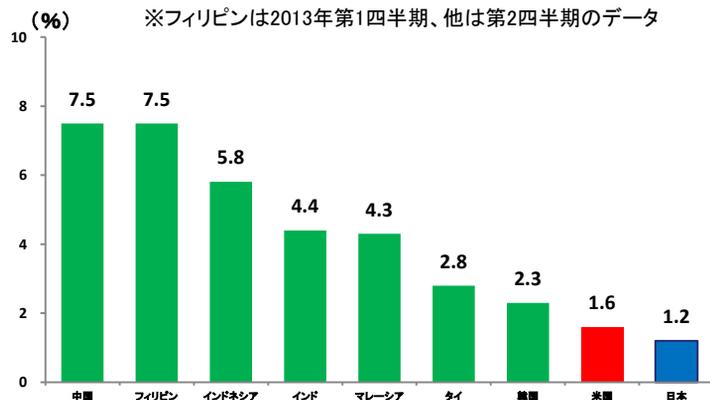
【図表①: 先進国株式とアジア株式の推移】



【図表②: アジア主要国の経済見通し(アジア開発銀行)】

	2012年	2013年(予想)	2014年(予想)
アジア全体	6.1	6.0	6.2
中国	7.7	7.6	7.4
インド	5.0	4.7	5.7
インドネシア	6.2	5.7	6.0
タイ	6.5	3.8	4.9
マレーシア	5.6	4.3	5.0
フィリピン	6.8	7.0	6.1

【図表③: 直近のアジア主要国の実質GDP成長率】



(出所: 図表①～③はブルームバーグ、ADB(アジア開発銀行)のデータよりニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。